

No.575

2022.8.22

KINZOKU DANCHI NEWS Since1974

金属団地ニュース

60th





令和4年度 金属団地安全大会

《安全は急がず焦らず怠らず》



安全衛生管理者協議会 会長 小栗 國男

令和元年に安全大会が行われて以来、3年ぶりの金属団地安全大会が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言などの措置もあり、2年間安全大会を中止せざるをえない状況下に於かれていました。

全国安全週間は、昭和3年に初めて実施されて以来、「人命尊重」という崇高な基本理念の下、「労働災害を防止するために産業界での自主的な活動の推進と、職場での安全に対する意識を高め、安全を維持する活動の定着を図ること」を目的に、一度も中断することなく続けられ、今年で95回目を迎えました。令和4年度は「安全は急がず焦らず怠らず」をスローガンに全国労働安全週間が実施されました。

この間、事業場では、労使が協調して労働災害防止対策が展開されてきました。この努力により労働災害は長期的には減少してきましたが、近年、就業人口の高齢化による高年齢労働者の労働災害、転倒や腰痛といった、労働者の作業行動に起因する労働災害が増加していることから、労働災害全体の件数が再び増加に転じている状況です。さらに、死亡災害も令和3年は増加に転じるなど予断を許さない状況です。金属団地での発生状況も例外ではなく、休業4日以上死傷災害は令和元年4件、2年7件、3年9件、令和3年には死亡災害も発生しています。また、岐阜労働基準監督署では令和3年度は死傷者数・死亡者数とも過去10年間で最多となり、短期間(7~9月)に集中的に災害防止に取り組む「ゼロ災チャレンジ2022」が実施され、参加企業の募集が行われました。金属団地のすべての企業が参加し災害0を目指していきます。

7月1日朝8時30分、今年は早々と梅雨が明け猛暑の中パトロールが開始され、協議会役員は、岐阜労働基準監督署の東主任監督官、前田主任監督官とともに常盤工業(株)さん、中部アルミ工業(株)さん、(株)秋田鉄工さん、3社を訪問し、各社ごとに講評を頂きました。



午前10時10分、組合研修センター3階集会場にて「安全大会」がスタートしました。

会長挨拶の後、各委員長さんに、委員会ごとに取りまとめたパトロールの結果を発表して頂き、東主任監督官から今回パトロールされた3社の総評、岐阜労働局管内における労働災害の発生状況などのお話を頂きました。直近の3年間はコロナ禍の為、安全活動などが十分に行えなかったこともあり、労働災害が増加傾向にあるとのことでした。

最後に労働安全・衛生コンサルタントの山岡先生による「安全は急がず焦らず怠らず」日頃からリ

スクを意識していますか？というテーマで講演会が行われました。

*事故の無い職場は一朝一夕では出来ない。

*日頃の安全対策、活動が大切である。

私たちが常に安全に対する高い意識を持ち続け、まずはこれからの1年間、災害の無い金属団地にしていきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

《ゼロ災チャレンジ2022》

ゼロ災①安全意識を高める

ゼロ災②危険な箇所・作業の洗い出しとその見直しをする

ゼロ災③転倒災害、墜落災害、はさまれ・巻き込まれ災害を防ぐ

今回の優良事業場として、東主任監督官より、常盤工業(株)さんが推薦され7月19日の月例会にて表彰されました。



監督官総評

岐阜労働基準監督署 第二方面主任監督官 東 彰子



日頃より岐阜県金属工業団地の皆様におかれましては、労働基準行政の推進に格別の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

岐阜労働基準監督署管内の労働災害の発生状況は、令和3年において死傷者数906人(休業4日以上)の死傷災害。以下、同じ)、死亡者数10人といずれも過去10年間で最多となりました。令和4年においても、6月末日現在の死傷者数は、469人で前年同時期と比較すると106

人と大幅増加、死亡者数は3人であり前年同時期と比較すると4人減少しているものの、依然として厳しい状況にあります。

また、金属工業団地内で発生した労働災害は、令和元年4件、令和2年7件、令和3年9件と増加しており、さらに昨年は死亡災害が1件発生しています。労働災害が増加した一因として、新型コロナウイルス感染症の拡大により、安全大会パトロールなど金属工業団地内の安全衛生活動が縮小されていた影響が考えられます。

令和3年から今年にかけて発生した労働災害をみると、不安全な行動による転倒、墜落・転落、はさまれ・巻き込まれ災害が多くを占めています。はさまれ・巻き込まれ災害は、製造業において災害発生件数が多く、死亡や身体の一部欠損など重篤な結果となることも多くあります。昨年金属工業団地内で発生した死亡災害もはさまれ・巻き込まれによるものです。

はさまれ・巻き込まれ防止対策としては、そもそも機械に巻き込まれないという本質安全化が第一です。また、安全に作業を行うための作業手順の策定も非常に重要です。ただし、これだけでは十分とは言えません。災害が発生すると、事業場で再発防止対策を講じられると思いますが、ここで注意いただきたいのが、災害発生原因を究明していただきたいということです。例えば、実際にあったケー

スですが、ある事業場では、機械の安全カバーが破損しており、機械の不具合調整の際に破損個所から手を入れて調整しようとし、機械に手を巻き込まれたという災害が発生し、再発防止対策として安全カバーを補修し、危険個所に手が入らないように対策しました。ここで、お願いしたいのは、なぜ安全カバーが破損していたのかという背景を確認して欲しいということです。このケースでは、調査の結果、実は安全カバーはかなり前から破損しており、作業員もこれに気が付いていましたが、不具合調整時に手を入れやすく都合がいいので、破損を黙っていたということがわかりました。この原因がわかれば、単に安全カバーを修理するだけではなく、安全装置の点検体制や、労働者への安全教育が必要だということがわかります。これにより、災害が発生した機械だけでなく、同様の作業についても再発防止の水平展開を行うことができます。このように、災害が発生する原因には、安全装置の不具合や、不安全行為があり、その行為には背景があるケースが多くあります。この背景を無視したまま安全対策や作業手順を作成しても、根本的な危険を排除することができませんので、災害が発生した背景についても確認いただくようにお願いします。

さて、今回は、3事業場の安全パトロールをさせていただきました。この3事業場は、規模も業種も様々であり、整理整頓がなされていた事業場、もう少し整理をお願いしたい事業場とこちらも様々でした。整理整頓を行うことにより、転倒災害の防止にもつながりますし、また、隠れた危険を見出すことができます。4S(整理、整頓、清掃、清潔)、5S(4S+しつけ)と申しますが、安全衛生の基本的事項となりますので、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

また、保守、保全に関する作業、設備についてですが、安全衛生上の不備があるケースがあります。主となる業務についての安全対策は講じられていても、作業頻度が少ない、本来業務ではないので、対策から漏れていたなどいろいろな理由があると思いますが、災害が発生するのは、非定常作業と言われる、通常の作業とは異なる作業、作業頻度の少ない作業に多いということを踏まえ、今一度非定常作業時の作業方法や、設備についても点検をお願いしたいと思います。

岐阜労働基準監督署では、令和4年7月1日から同年10月7日までを対象期間とし、「ゼロ災チャレンジ2022」を展開しています。「ゼロ災チャレンジ2022」では、①安全意識を高める②危険な箇所・作業の洗い出しとその見直しをする③転倒災害、墜落災害、はさまれ・巻き込まれ災害を防ぐ、の3点を重点取組事項としています。これらの取組は事業者のみで行うのではなく、労使が一体となって取組むことにより、一層の効果が生じるものです。金属工業団地では、団地全体としてこの活動に取り組んでいただいております。ぜひこの機会を活用いただき、労使一丸となり安全意識を高め、労働災害の防止に努めていただきたいと思います。

7 月度月例会開催

7月19日(火)正午より組合研修センター 3階集会室にて7月度月例会を開催しました。

岐阜信用金庫様ご協力のもと「CO₂排出量の可視化から始まる脱炭素」と題し、三井物産(株) 中部支社 岡野喜子 様 e-dash(株) 甲斐綾乃 様にご講演していただきました。

所謂カーボンニュートラルについてご説明の後、企業の脱炭素化への取り組みをご紹介いただきました。CO₂排出量について、継続的把握・削減・



取組状況などの情報開示が、中長期にわたる取組みとして重要とのこと。

地球規模の環境問題に向け各国はCO₂排出削減を推進し、日本政府も目標を掲げこの問題へ取り組んでいます。大企業などのグローバル企業をはじめ取組みが先行していますが、サプライチェーン全体として削減を目指す中で中小企業もこの環境への取組みが波及し無視できない問題と考えられています。

社長就任のご挨拶



株式会社和井田製作所
代表取締役社長 森下 博

去る6月21日開催の取締役会をもって代表取締役社長に就任しました。これにより、会長、副会長とともに代表取締役3名体制となりました。

当社は本年をもって設立以来76年を迎えます。その間、歴代の代表者および先輩諸氏によってしっかりとした体制が築かれてまいりました。事業分野では、研削技術に特化しニッチな分野を深耕してきた実績があり、組織能力では、役職員が自らの職務を長期的に追求していく社風があります。私は、こうした伝統を引き継ぎ、さらに発展させていきたいと考えています。

そのためには、さまざまな経営課題があるなか、まずは従来からの製品群の高度化を図り、その上で新たな分野を開拓していきたいと考えています。また、社内体制については、高度化する技術水準や、広域化する営業展開への対応を中心として、各部門の体制強化と能力向上を促していきます。

こうした取組みにより、「企業は永遠でなくてはならない」という当社の企業理念を着実に遂行していきたいと考えています。

金属工業団地の皆さまにおかれましては、引き続きご指導、ご鞭撻をいただきますよう何卒よろしくお願ひ申し上げます。

理事就任挨拶



(株)サクラダ工業 横山 慎二

今年度の金属団地通常総会で理事に就任しました、(株)サクラダ工業の横山慎二です。

弊社に入社して30年目の節目にこのような大役を任されることを非常に責任重大と感じております。私は今まで監事として2014年～2022年まで8年間監査業務を通じて組合運営に関わってきました。役員会では先輩理事の方々がどのようなことを考え、行動されてきたのかを見てきたつもりです。

今後は理事として金属団地のために「何ができるのか」、「何にお役立てできるのか」を考えながらしっかりと役割をはたしていければと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



東海ダイカスト工業(株) 下村 祐介

本年度より理事に就任いたしました東海ダイカスト工業(株)の下村祐介です。当社に入社し金属団地の存在を知り、青年部の活動を通じ組合との繋がりを持つことで様々な気づきを得ることができ、一昨年から監事として監査報告に関わらせて頂いたことで組合の事業についてより深く理解することができました。これまでの24年間を通して組合員の皆様から受けたご恩に少しでもお返ししていけるよう、理事として努めてまいりたいと思います。

本年度は総務委員会副委員長として、主に組合員親睦旅行に関わる企画を進めてまいります。コロナ禍もあり組合事業も中止が相次ぎ交流の機会が減少している近年ではありますが、親睦を通してお互いを知り組合の未来を語り合うことのできる機会を設けることで、組合員の皆様の心が通じ合うきっかけづくりができるよう、微力ながら努めてまいりたいと思います。これからもご指導賜りますようお願い申し上げます。



60周年記念特集

60周年記念誌を振り返る ⑤

「記念誌(付録)制作こぼれ話 編」

昨年の金属団地60周年記念誌事業におきまして、青年部にて記念誌(付録)の制作を担当させていただきました。3月の月例会にて本誌と合わせて配布をさせて頂きましたが、いかがでしたでしょうか?制作にあたっての裏話・・・と呼べるほどの面白いネタはありませんが、青年部がああ別冊付録をどのように制作していったのか?について、時系列で追記をしてみたいと思います。

【6月2日 別冊付録 制作キックオフ】

金属団地の60年を振り返れるような別冊付録の作成ということで、青年部を5班のペアに分け、10年単位で分担して制作することとした。全184ページを9月末に完成目標。内容はバラエティに富むように各班それぞれにお任せとした。

【6月3日 過去団地ニュース確認作業開始】

組合小会議室をベース基地として、お菓子とジュースを買い込んでの団地ニュース確認作業を開始。しかし膨大な量の過去団地ニュースを目の当たりにして、「これ、本当に出来るのかな…」というヤバイ感じの空気が漂う。

【6月8日 掲載内容について】

ピックアップする内容は各班にお任せとしていたが、「それでは誌面としての統一性がないのではないか?」という意見で方向修正。各班の担当年代で共通する『団地ニューストピックス』『組合旅行』『漫画』『スポーツ大会』『ふいご』『青年部活動』の項目を柱にして誌面構成することとした。

【～6月末 ひたすら団地ニュースを熟読】

黙々と過去団地ニュースを読み込んでの確認作業とネタのピックアップを続ける。中には担当年代の団地ニュース全ページを撮影する班も。

【7月12日 誌面ページ割案を検討】

ピックアップした各コーナーの情報量をもとに、おおよその誌面構成案を決定。またこの頃から、青年部内で「(作業中に飲み食いする) コーラとお菓子で太りだした」という意見が出始める。

【～7月末 誌面制作に着手】

『組合旅行』を皮切りに制作に着手。しかしながら、各班ともにスポーツ大会の記録確認で想像以上に苦勞する。昔のスポーツ事業の開催回数の多さに驚く。

【8月初旬 記録ファイル発見】

組合書庫にてスポーツ大会はじめ、組合旅行資料、青年部活動資料等のファイルを発見。「最初からこれで調べれば良かった!」と思った反面、材料が増えたことでより詳細な作り込みが出来てしまうことにも気づいてしまう。しかしながら、数十年前の野球大会のメンバー表や組合旅行の見積書などの資料が未だに残っていることには大変驚いた。

【9月～ 歴代記念誌委員長インタビュー開始】

深く考えずに決めた班決めと担当年代決めではあったが、偶然にも2班で親子インタビューとなったのは感慨深い。そして歴代記念誌委員長の皆さまが口裏を合わせたかのように「マル秘ネタ」についてのコメントを避けられるところに何とも言えない一体感を感じた。

【～9月末 ラストスパート】

『団地ニューストピックス』以外のコーナーの誌面がほぼ完成。『団地ニューストピックス』については古い年代ほど事業が多いためネタが豊富で、逆に近年では事業が少なくなっているため、ネタ選定に苦勞をしているようだった。また冊子にするにあたってのページ調整を検討。予定より1ページずれるだけで、他のページ割に影響を及ぼすので慎重に行った。

【10月12日 (校正前) 完成】

若干の遅れはあったものの、最終的には全196ページにて何とか校正前まで完成。

【10月13日～12月21日 印刷会社へ提出～1次完成品到着】

10月13日に昭和印刷殿へデータ提出。昭和印刷殿より、「団地ニュースからの写真や『ふいご』のスキヤンが非常に大変かもしれない」との意見もあったが、それから2ヶ月ほどで1次完成品を制作頂いた。

【～2月8日 校正作業&最終提出】

校正作業を経て、2月8日に最終データ提出。これにて別冊付録制作ミッションを完了。

時系列で表記するとあっさりしたものになってしまいましたが、6月から、毎週火曜日と木曜日の夕方～全32回(少なく見積もっても延べ時間は一人当たり64時間、10名で640時間か)の集い(と内職)を経て完成した冊子ですので、青年部としては多くの時間を費やして金属団地への思いを込めた1冊に仕上がっていると思っています。

もしまだ御覧頂いていない方がみえましたら、是非とも冊子を手にとってページをめくって頂ければ嬉しいです。

2021年度

(青年部)60周年記念誌委員長



信頼できるメディア

7月8日 安倍元内閣総理大臣の暗殺事件が起きた。本当にショッキングな出来事だった。すぐさま250を超える国・地域・機関から弔意が届けられた。この海外からの反応に皆さんは違和感を覚えませんでしたか？ 何故海外からこんなに多くの弔意が日本の元総理大臣に届けられるのかと。多くの日本人が持っている安倍元総理の印象と海外とでは何か大きく違うのではないかと。多くの国々がすぐさま半旗を掲げるなか、当の日本は何に遠慮しているのか、なかなか半旗としなかったが、日本での安倍総理の評価は海外のそれと乖離しているのではないかと。

安倍総理で印象に残っていることは？とのアンケートの問いに大多数がモリカケ桜と答えた。今回の事件について「安倍はモリカケとか悪いことやって金貰ってるから仕方ない」などと言う御年配の方も居る。一因はこれである。マスコミはありもしない不正を疑惑だと騒ぎ立て、叩きに叩いた。残念ながら年配者の多くは、毎日の新聞テレビ報道で少し脳がやられてしまっている。と私は考える。

野党にあっては週刊誌の記事に基づいて国会質問を行うような始末。武漢ウイルスが国内に入り始めたのに、そんな時でも「えーまずは現在最も重要な案件である桜をー」である。もうどうかしている。これでは与党どころか野党の資格もない。とにかくマスコミがモリカケ桜と騒いで攻撃をし、これに野党が便乗して安倍総理の日本での評価を貶めた、と言える。

安倍総理の功績はと言えば、最長任期だというだけではない。経済立て直し、支持率が下がること覚悟の上での特定秘密保護法、平和安保法制、教育基本法改正どれも歴代総理が避けてきたこと。そして外交安全保障の強化、国家安全保障戦略、自由で開かれたインド太平洋構想、これらがあるからこそ、今現在少しでも中国の脅威に対抗できる望みがあるのです。これらの功績は、海外では認められていることなのです。

マスコミは報道しない自由を利用し、安倍総理を貶めるために、その功績に関しては極力報道を避けて来た。そして自分たちの意に合わない者を徹底的に叩く。だから多くの日本人がアンケートの回答者のように、そしてあの年配者のように、安倍元総理が何か悪いことをやって来たに違いないと、印象操作をされているのだと私は考える。

今回の暗殺事件、実はまだ致命傷となった銃弾が見つかっていない、というか体内に残っているはずの銃弾がどこかへ消えてしまったらしい。そんな重大で大変不可解なことが起きているのだが、世の中の話題は犯人が元自衛隊員だったということ、宗教団体と政治と金になり、今は国葬の是非へと移ってきている。まるで誘導され、意図的に目をそらされているかのようでもある。

今回の国葬について世代が若いほど賛成率が高いようである。現代の若者はテレビを見なくなってきている、新聞も読まない。やはりネットからの情報収集がメインだ。先日の参院選でも街頭演説を動画配信で観たという人も多かったようだ。段々と有権者がテレビ世代からネット世代に変わって行く。投票行動も変わり支持政党も変わって行くだろう。今後もメディアが無くなることはない、各々が偏ることなく多くのメディアに触れ、そして御自身で信頼できるメディアを見つけて頂きたい。

なお、当団地ニュースは真実のみをお伝えする信頼できるメディアである。今後も安心してご愛読いただきたい。

まずは、安倍晋三内閣総理大臣(第90・96・97・98代)の御冥福をお祈りしたい。

宝丸 勉



ホラタ、工業株式会社



■ 理念

私たちは、「安心」あるものづくりと 人と環境に優しい企業を目指します

創業当時から、ホラタは「お客様のご要望に答えたい」という精神で歩み、時代の変化に対応できる柔軟性と独自の技術を構築、「ホラタに頼めば何とかなる」と信頼して頂ける企業を目指し精進して参りました。

私たちは、近江商人の哲学「三方よし」にならい、「三方よし～お客様よし・従業員よし・地域社会よし～」を信念とし、どんな時代にあっても、常に三方が安心を共有できる企業を目指していきます。

- 一、 お客様のものづくりを安定供給で支えます。
経験に裏付けられた技術を駆使し安心して任せていただけるよう努めます。
- 一、 従業員が安心して働ける職場環境を提供します。
従業員とその家族が安心して社会生活を送ることができるよう支えます。
- 一、 地域社会と地球の環境保全に貢献します。
私たちと次世代が暮らす地域社会の活性化と地球の環境保全に取り組みます。

■ 事業内容

金属構造物を主とした機器の製造
(昇降機器、建築機器、物流機器、
油圧機器等)

■ 取引先

三菱電機ビルソリューションズ(株)
三菱日立ホームエレベーター(株)
日本車輛製造(株)
(株)不二越
三菱ロジスネクスト(株)

■ 当社の特徴

私たちは、エコアクション21の認証取得を継続し、環境に優しいものづくりを生産に反映しています。

生産システムは、社内のエンジニアが独自開発するもので、お客様からのご注文を生産につなげお届けするまでの全行程において、人と環境に優しいものづくりを最適化しています。

図面は、一品一様の生産指示書や品質確認シートに置換り、解読時間を大幅に改善しています。

2台のベンディングロボットを導入し、腰への負荷を大幅に軽減するなど、人にやさしいものづくりを実現しています。

生産の経過は見える化し、工程間で製品が滞ることを防ぐと共に、人の監視の負担を軽減しています。

熟練作業者がこれらと相まって高効率で高品質なものづくりを実現しています。



事務所(CAD)

SH・TPP作業

LZ作業



PB作業

機械加工



溶接

塗装

組立



青年部50周年記念委員会進捗報告

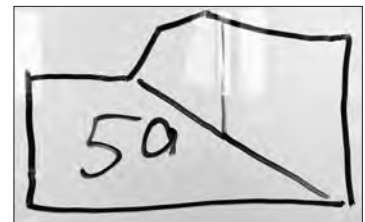
今年度は、「原点回帰、ものづくりを楽しむ」というテーマで活動している青年部ですが、3か月たち、いよいよ何を製作するのか決定しました。数ある意見の中から2種類に絞り活動をする事としました。

まず1つ目。「みんな大好きBBQセット」に決まりました。BBQセット製作班のリーダーには、期待の若手徳田さんに努めてもらうことになりました。BBQ班の中ではドラム缶や端材を使うなど、SDGsを意識したものづくりになるみたいです。廃材からどのようなBBQセットができるか楽しみです。

次に2つ目。「青年部オリジナルパター」に決まりました。オリジナルパター製作班のリーダーには、青年部最年少の秋田さんに努めてもらうことになりました。ゴルフがうまくなりたい青年部メンバーからは、「アイデアが出るわ、出るわ」状態に。そのアイデアを検索してみると、既に作られているパターンが多いこと。一例として、レーザーポインタ付パター。レーザーポインタを使えば向いている方向もばっちり！と考えましたが、既製品で世に出回っていました。青年部の柔軟なアイデアで面白いものを作れるか楽しみです。

ただ、青年部50周年という記念でもあるので、やはり50周年で作ったと分かる何かが欲しい。そこで、ロゴを考えました。各製作品にロゴを入れるだけでも、ゲンと特別感が上がるのではないかと！そこで、BBQ班から提案されたロゴに決定しました。(右写真)

写真だけでは何のことかわかりませんが、このロゴは、金属団地を上から見た外形ラインに、ヤングの「y」を足したもの。そこに50周年の「50」を入れたものになります。



現在の進捗は、ここまでです。ここからは、実際に作って試す工程に入っていきます。どのようなものが出来上がるか楽しみです。



岐阜県の工業系高校生徒の受験先企業決定要素は“何”？ その2

先月号では、工業系高校の生徒たちがどのような求人条件(求人票の記載事項)を決め手として受験先企業を選んでいるのかについて、「企業規模」・「初任給」・「年間休日数」をキーワードに説明させて頂きました。今回は、続編(初任給・年間休日数アップの効果等)を紹介させて頂きたいと記述しましたが、今月はその前に、地区別の求人企業、内定ありの企業となしの企業の求人条件の違いについて述べさせて頂きます。

図1は、令和3年度の岐阜地区工業系高校の地区別の求人企業数・内定企業数です。

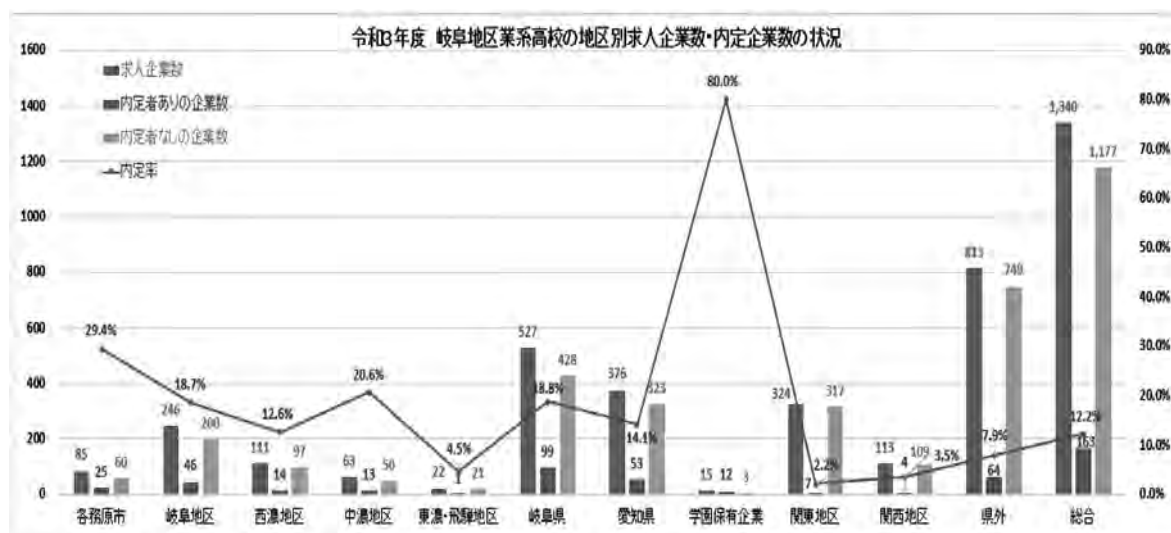


図1 令和3年度岐阜地区工業系高校の地区別求人企業数・内定企業数の状況

全体の求人企業数1,340社に対して内定のあった企業数は163社、内定率は12.2%でした。(令和3年10月末現在での集計) 各務原市は、求人企業数85社に対して内定のあった企業は25社、内定率29.4%と、全体の2.5倍近い高い内定率となっています。これは、①企業情報(OB社員情報)の積極的な提供、②早い求人番号獲得の意識の高さ ③積極的な求人条件の見直し等の、各務原市内企業の積極的な求人活動の成果です。また、生徒の居住地区から通勤時間が自家用車で1時間以内との“地の利のアドバンテージ”が要因に挙げられます。この他には、例えば、岐阜地区は、求人企業数246社、内定企業46社、内定率18.7%、岐阜県全体では、求人企業数527社、内定企業99社、内定率18.8%、愛知県は、求人企業数376社、内定企業53社、内定率14.1%となっています。内定率でみると、生徒たちは、愛知県の企業ではなく、各務原市・岐阜地区(岐阜県内)の企業を選択していると言えます。では、自社を選択させるためにはどうしたらいいのでしょうか？以下に、生徒が受験先企業を決定するにあたって重視する事項のうち次の3事項：①初任給、②年間休日数、③休暇制度(週休二日制)についての地区別分析結果を紹介します。

先月号で、令和3年度の岐阜地区工業系高校への求人企業の初任給及び年間休日数を区分に分け、区分の求人企業数と内定企業数の関係の分析結果を紹介させて頂き、生徒たちの“受験先企業決定要素”についてお伝えさせて頂きました。この「初任給」と「年間休日数」という二つの“受験先企業決定要素”について、今回は地区別に内定の有無との関係を分析してみましたので紹介させて頂きます。

図2は、令和3年度の岐阜地区工業系高校への求人企業の初任給を、内定の有無で地区別に分析したグラフです。全体の求人企業1,340社の初任給の平均は171,621円で、内定のあった企業163社の平均は172,860円、内定のなかった企業1,177社の平均は170,732円で、内定のあった企業の方がなかった企業の平均より2,128円高くなっています。今や、新規高卒の初任給も17万円台に突入した状況になっています。

愛知県の「企業内学園保有企業」の内定ありの初任給平均が167,432円と他地区と比較してかなり低い値となっています。これは学園在籍中(1年間・若しくは2年間)の給料であり、学園卒業後、現場に配属されると同期の新規高卒よりは高額になっているようです。また、同期で技能職として即現場に配属される新規高卒の初任給は学園生の初任給よりも高額となっているようです。

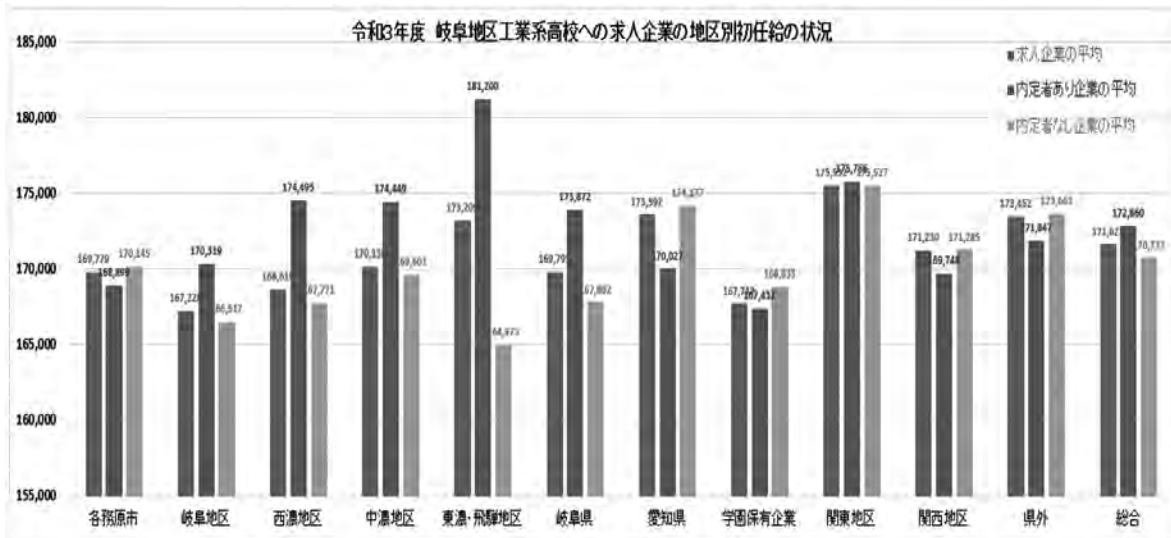


図2 令和3年度岐阜地区工業系高校への求人企業の地区別初任給の状況

内定あり企業の方が内定なし企業より平均値が高い地区が多い状況にあって、各務原市と愛知県は内定あり企業の方が内定なし企業よりも低い平均初任給となっており、各務原市は1,246円、愛知県は4,150円内定ありの企業の方が低い値となっています。このことは、この二つの地区への就職希望生徒は、「初任給」よりも重視する事項(年間休日数?通勤の利便性?)が他にあることの表れだと考えられます。

図3は、令和3年度の岐阜地区工業系高校への求人企業の地区別年間休日数の状況を、内定企業の有無で分析したグラフです。

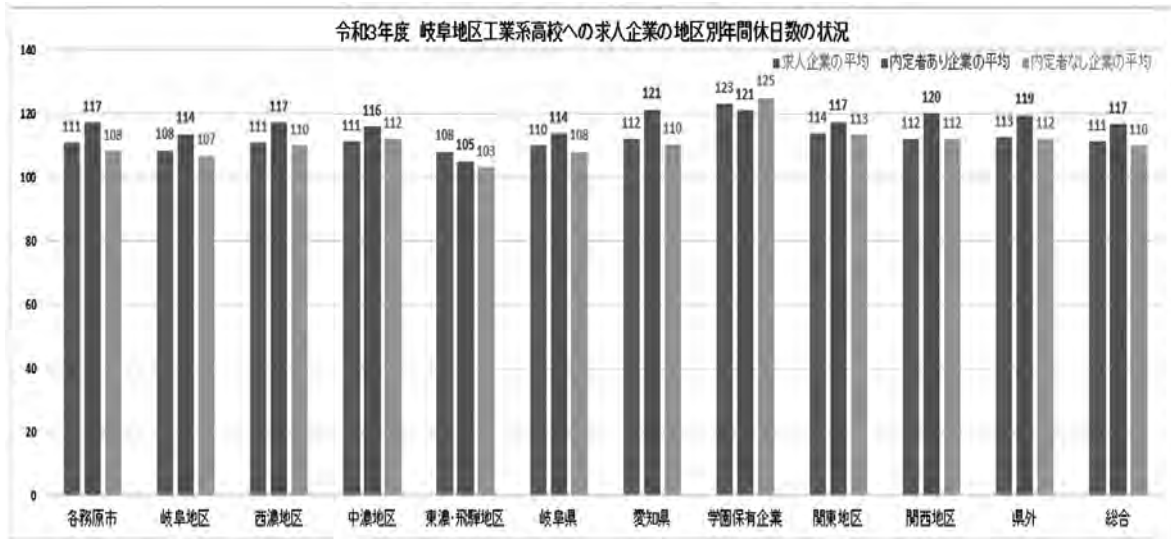


図3 令和3年度岐阜地区工業系高校への求人企業の地区別年間休日数の状況

先月号で、「生徒が受験先企業を決めるにあたって重視する事項の第1位は「年間休日数」で、これが110日を下回ると応募・内定の獲得が厳しくなる」と述べさせて頂きました。図3では、このことが顕著に示されており、年間休日数の平均は、ほぼすべての地区で、内定ありの企業が内定なしの企業を大きく上回っています。※東濃・飛騨地区及び学園保有企業は図1のとおりサンプルが少数のため参考値です。

各務原市では、求人企業全体の平均が111日、内定あり企業の平均が117日、内定なしの企業の平均が108日となっています。岐阜県全体では、求人企業全体の平均が110日、内定あり企業の平均が114日、内定なしの企業の平均が108日となっています。愛知県では、求人企業全体の平均が112日、内定あり企業の平均が121日、内定なしの企業の平均が110日となっています。総合では、求人企業全体の平均が111日、内定あり企業の平均が117日、内定なしの企業の平均が110日となっています。

図3の分析結果からも、生徒たちが受験先企業を決めるにあたって「年間休日数」を最重視していることが

読み取れます。年間休日数の増加は、現社員の方たちにとっても福利厚生充実にもなり、新規高卒獲得のための“戦闘力”を高めることにもなりますので、年間休日数が110日未満で、この何年か新規高卒の応募・内定を獲得できていない企業様は、是非、参考にして頂ければと思います。

図4は、令和3年度の岐阜地区工業系高校への求人企業の地区別週休二日制実施状況を内定の有無で分析したグラフです。「年間休日数」に加え、生徒たちが重視する事項の一つに「休暇制度」が挙げられます。これは「働き方改革」という社会の動向を生徒たちが敏感に感じ取っていることの表れだと感じています。

各務原市では、求人企業85社のうち、“求人票”に“週休二日制”を明記されている企業が35社、実施率41.2%、このうち、応募・内定獲得があった企業は13社、実施企業に占める内定率は37.1%、応募・内定獲得企業の週休二日制実施率は、52.0%となっています。岐阜県では、求人企業527社のうち、“求人票”に“週休二日制”を明記されている企業が161社、実施率30.6%、このうち、応募・内定の獲得があった企業は44社、実施企業に占める内定率は27.3%、応募・内定獲得企業の週休二日制実施率は、44.4%となっています。

愛知県では、求人企業376社のうち、“求人票”に“週休二日制”を明記されている企業が154社、実施率41.0%、このうち、応募・内定の獲得があった企業は41社、実施企業に占める内定率は26.6%、応募・内定獲得企業の週休二日制実施率は、77.4%となっています。求人企業全体1,340社では、“求人票”に“週休二日制”を明記されている企業が496社、実施率37.0%、このうち、応募・内定の獲得があった企業は91社、実施企業に占める内定率は18.3%、応募・内定獲得企業の週休二日制実施率は、55.8%となっています。いづれの地区でも、週休二日制実施企業の内定率は地区の内定率を大きく上回っています。(図4参照)

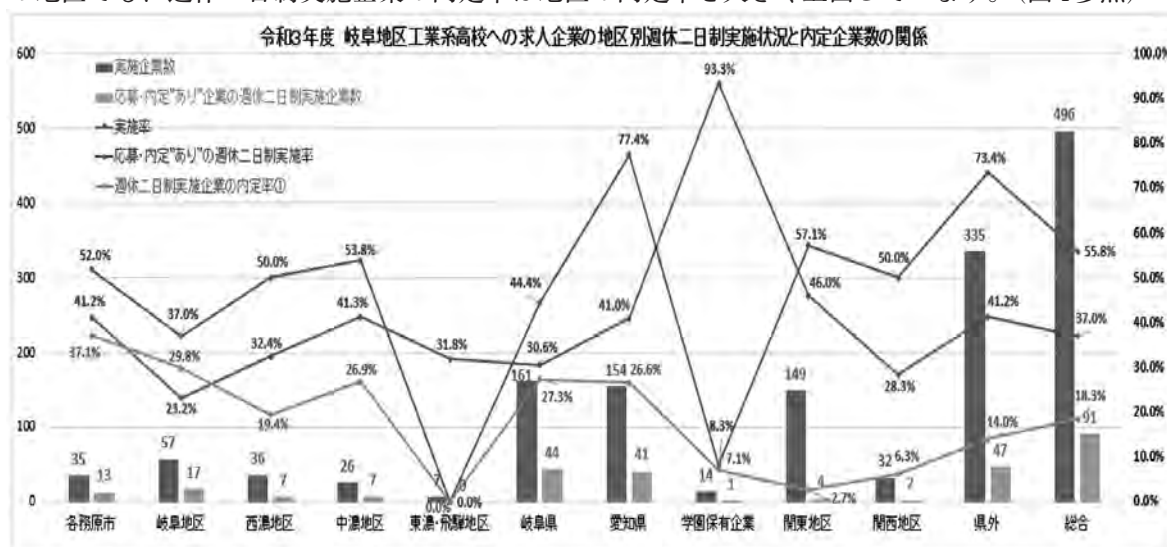


図4 令和3年度岐阜地区工業系高校への求人企業の地区別週休二日制実施状況と内定企業数の関係

業種や生産体制等から、休日は「会社のカレンダーによる」と記述されている企業が多くあり、休暇制度の変更は企業によっては非常に難しいことだとは思いますが、受験先企業を決めるにあたって「休暇制度」も重視する項目の一つにしているという高校生が多くいるという現実を知って頂ければと思います。

人手不足、特に若手の人材不足に悩んでいる企業が多くある建設業界において、週休二日制の導入に踏み切る企業が、この1、2年多く見られるようになってきました。新規高卒の採用活動にあたって、「企業の要件・事由」を最優先されるのは当然ですが、工業系高校生たちは自分の“夢・目標の実現”、社会人になって“やりたいことを最優先”に受験先企業を選択しています。この企業側の都合と高校生たちの都合とのギャップが、新規高卒を獲得できてない最も大きな課題だと思います。採用担当の皆様も、今回紹介させて頂きました同じ地区のライバル企業の動向や高校生たちの就職意識を参考にされて、自社の新規高卒採用戦略を立てて頂ければと思います。※「彼を知り、己を知れば百戦危うからず。」です。

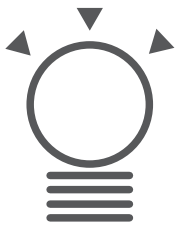
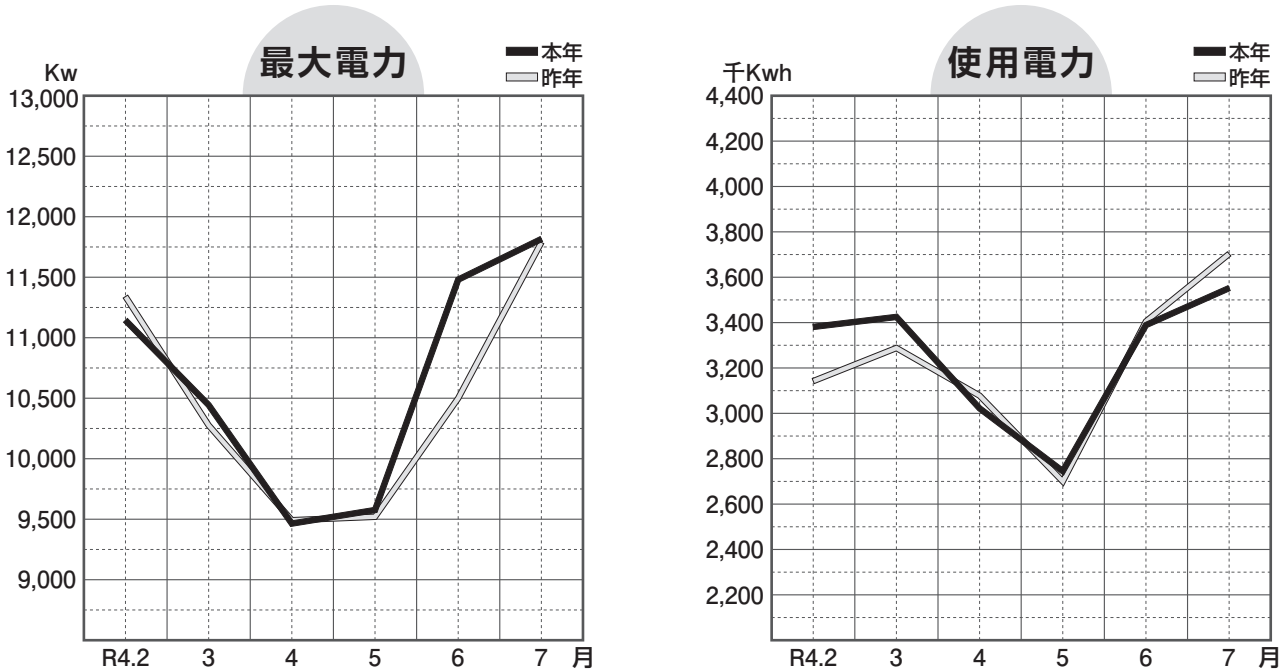
次回は、初任給や年間休日数のアップと応募・内定獲得の関係(UP効果)について紹介させて頂きたいと思います。

(文責：各務原市企業人材全力応援室 人材確保相談員 長屋千秋)



お知らせ

令和4年7月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

電力不足の原因

電力不足の原因には、電力自由化、脱炭素、燃料価格の高騰、再エネなど様々な原因がありますが、一番大きな原因は再生可能エネルギーでしょう。特に太陽光発電は当初から大きな問題が2つあります。

日が出ている間しか発電できない条件付きの発電であること。もう一つは、発電事業者が不安定な電力に対して責任を持たないことです。

責任というと太陽光が発電しない時は電力会社が火力発電などで補えばいいと考えますが、太陽光発電は一般家庭や企業が発電事業者となるため電力会社とは関係がありません。電力会社からすれば電力を買い取るのに太陽光発電事業者のためにバックアップ(発電所)を持つことになってしまいます。2016年電力全面自由化以降、火力発電所を停止してきた経緯からみても安定供給に対して地域電力会社は責任をとる主体ではなくなってしまったのかもしれない。

電力不足によって様々な問題を指摘されていますが、この機会にエネルギー政策を見直して問題を解決してもらいたい。このままでは原発再稼働で短期的に電力確保をしても、電力会社の経営判断で今までのように火力発電所を停止していくことになり同じ問題を抱え続けることになってしまうのではないのでしょうか。

行事予定

2022 **8** August

16 火	『組合休日』
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	団地G(取り切り戦) 『組合休日』
21 日	
22 月	役員会
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	研修センター貯水槽清掃(美装モリタ商会) 『組合休日』
28 日	
29 月	編集委員会
30 火	
31 水	

2022 **9** September

1 木	
2 金	金融委員会
3 土	『組合休日』
4 日	
5 月	青年部全体会議
6 火	
7 水	
8 木	
9 金	
10 土	『組合休日』
11 日	
12 月	
13 火	
14 水	
15 木	

■ 9月の行事予定

9月17日☹ 団地G 9月20日☹ 月例会・役員会

■ 7月度金属団地ゴルフ会

7月16日☹ 荘川高原カントリー倶楽部

優勝 三島基成(三島精器) 2位 永田 保(マルエイ) 3位 山村容弘(山村製作所)

7月17日☹ 飛騨高山カントリークラブ

優勝 洞田 修(ホラタ、工業) 2位 鈴木純一(豊菱製作所) 3位 小栗國男(信栄ゴム工業)

■ 共同駐車場空き状況 (2022年8月1日現在)

駐車場	資材置場北	喫茶店北	倉庫南	福祉会館東	C棟南
空き数	0	0	0	1	1
駐車場	研修センター東	研修センター南	研修センター西	溶接組合	三井川東
空き数	0	0	0	0	0

※C棟南はC棟入居者用

G-MECCA

Gifu Metal Engineering Community Cooperative Association

<http://www.g-mecca.jp>

